

武雄市立図書館についての調査と考察

村口 智紀

武雄市立図書館・歴史資料館（以下で武雄市立図書館とする）は、九州の佐賀県武雄市の公共図書館である。武雄市立図書館は平成 25 年に指定管理者制度を導入した。その委託先に日本初の試みとして CCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）を選択した。この CCC による管理運営については、先に業者を選定してから議会に指定管理者制度の導入を諮るなど、業者選択の手法や、その独特の経営方法に様々な問題が提起されてきた。

本論文では、武雄市立図書館の経営について、また武雄市立図書館における問題点や、利用者の視点から見た武雄市立図書館の優れた点や改善点を明らかにするため、様々な調査を行う。また武雄市立図書館に実地調査に出向き直接武雄市立図書館館長から資料提供及び武雄市立図書館についての聞き取り調査やアンケート調査を行う。加えて他都道府県と同規模自治体の図書館や佐賀県の公共図書館との統計的な較を行いながら武雄市立図書館の特徴について考察する。以上、調査方法は、①アンケート調査、②聞き取り調査、③他都道府県と同規模自治体の図書館や佐賀県の公共図書館との統計比較、の 3 つである。以下ではそれぞれの結果を述べる。①アンケート調査の結果、武雄市立図書館が指定管理者制度導入以前と以後の利用回数は 7 割以上の人が増えたという結果になった。スターバックスコーヒーの導入や、以前より雰囲気良くなったとする回答も多く見られたことから、現在の武雄市立図書館のスタイルは武雄市民に受け入れられていると考えられる。②聞き取り調査の結果、武雄市立図書館が構想段階から民間と連携し、住民の意見を尊重した図書館として誕生した図書館であり、サービス拡充と行革の実現を考え、また武雄市民のあらゆる場面で役に立つ地域密着型の図書館として歩んできた過程が浮かび上がった。③県内の公共図書館と武雄市立図書館を比較した結果、住民一人当たりの貸出冊数は 8.3 冊と佐賀県内で最も高いという事が分かった。また同規模の奉仕人口を持つ他市の公共図書館との比較では、比較した全ての図書館が、登録者数より奉仕人口の方が多いという結果になり、武雄市だけが登録者数の方が多いことが分かった。また武雄市立図書館は、同規模の奉仕人口を持つ図書館の予算額、決算額を除く平均と比較して全て平均以上であることが分かった。

武雄市立図書館は、図書館としての側面と、地域の交流の場としての側面も持ち合わせ、多面的な使命を果たしていると考ええる。そこに、図書館という観点だけを持って見た場合、問題点もあるのだろうが、地域の複合施設として武雄市立図書館を見た時は、また違った見え方があるのではないかと私は考える。

（指導教員 辻慶太）